

食文化と植物

緑生瓦版

2010.07.01
第二十七号

昨秋まで一年弱の間英国に留学しておりました。現地を通っていた学校で出された課題の中で最も力を注いだものは「Research report」で、各自で実施したアンケートを集計してレポートを書くという内容でした。私は、野生植物を食生活に利用する習慣の有無について調査し、七十名五地域（欧州、東アジア、中東、アフリカ、北米）十五ヶ国分の回答を得ました。その結果、東アジア出身者の約八割がこの習慣の存在を認めました（他地域は平均約五割）。面白いのは入手方法で、利用者の多くが「購入」や「自ら採取」を挙げている中、「誰かに貰う」も挙げた人は一割半で、その大半が日本人だったのです。少ないサンプル数ながらも、東アジア、とりわけお裾分けを貰ってまで野生植物を利用する日本の食文化を垣間見るこの出来るレポートとなりました。

枝もたわわに実った桑の実を目にして心躍る季節ですが、皆さんはどんな山菜が好きですか？

調査部
能勢 かおり

緑生研究所って、どんな会社…？ ～ GIS による植物の生育立地評価と分布予測の巻 その2 ～

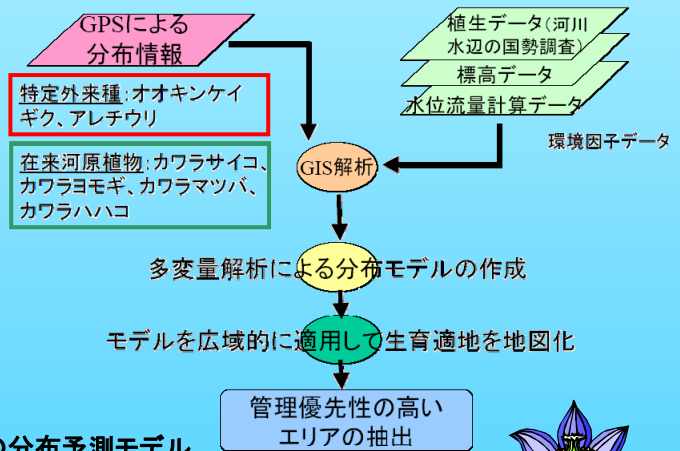
今回は、前回に引き続き地理情報システム（GIS）を用いた生育・生息立地条件の分析や潜在的な分布可能域の予測についてお話しします。ここでは河川敷の植物を対象とした「特定外来生物オオキンケイギクを対象とした分析事例」をご紹介します。

（計画部 伊藤休一）

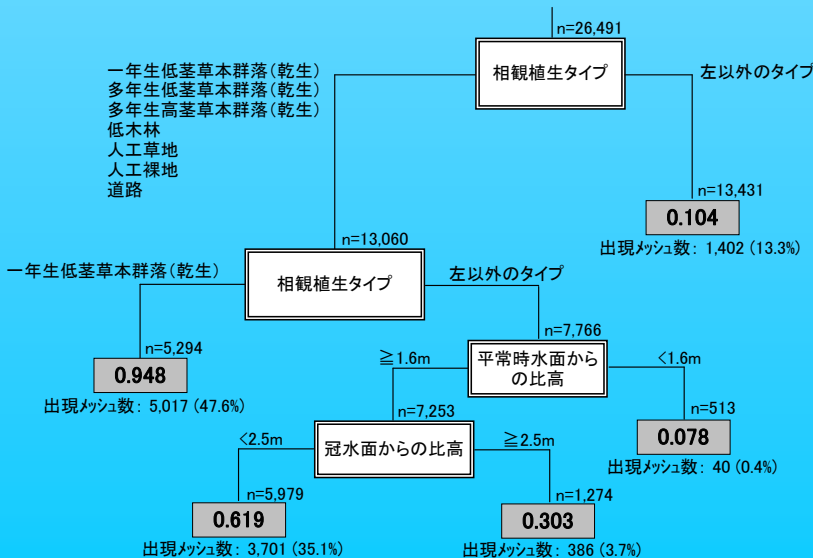


オオキンケイギク

- 河川敷の植物の生育立地評価と分布予測 -
河川敷における植物の分布は、冠水頻度や基盤の状態（礫河原か泥質か等）などの環境条件の影響を受けます。絶えず変化する動的な河川環境に特有な環境条件を、GIS 上で適切な環境因子データとして表現することが分析成功の鍵となります。



■ 多変量解析(樹形モデル)によるオオキンケイギクの分布予測モデル



用いた説明変数

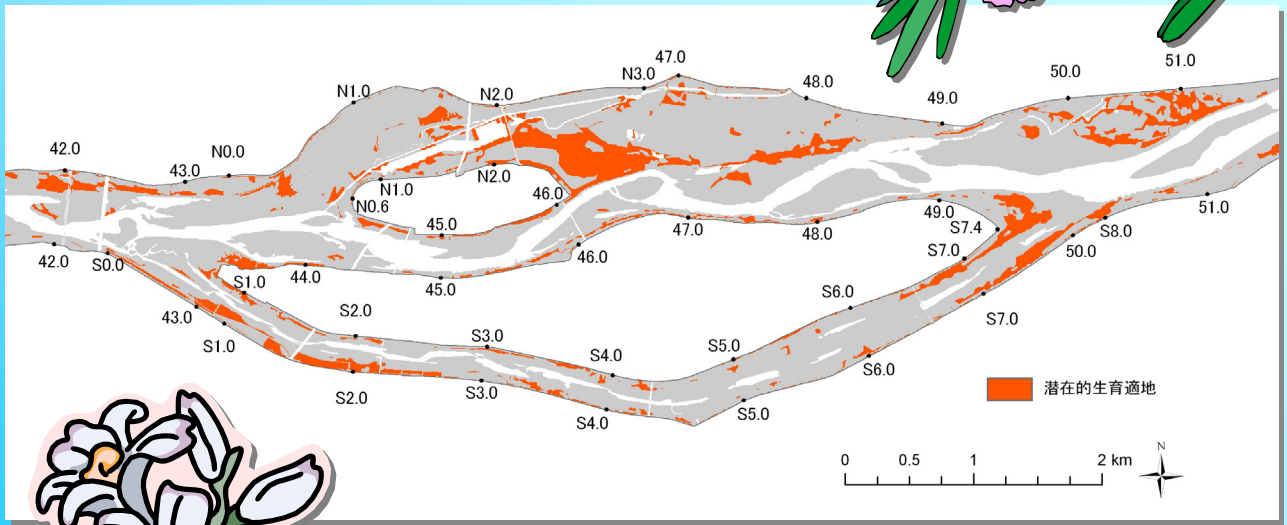
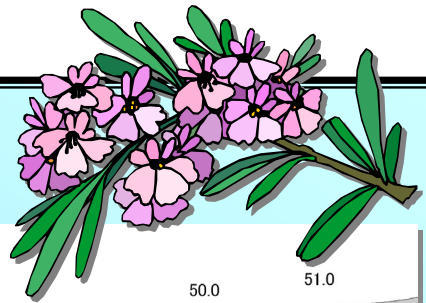
- ・相観植生タイプ
- ・林縁長
- ・平常時水面からの比高
- ・2年に1回確率の冠水面からの比高
- ・河床勾配 など

予測結果

オオキンケイギクの分布は、相観植生タイプとの結びつきが強い。水面からの比高では、平常時および冠水時の両方が分布に影響している。



■ 分布予測モデルの広域的な適用による潜在的生育適地の推定



分布予測モデルを広域に適用して抽出されたオオキンケイギクの潜在的生育適地（赤い部分）
冠水頻度の低い高水敷の礫河原環境が潜在的生育適地として予測された。

アンケートのお願い！

Q. 「緑生瓦版」のなかで取り上げてほしい内容や、ご意見、ご感想などを教えてください。

差し支えなければ、会社名、所属、氏名をお教え下さい。

会社名： _____ 所属： _____ 氏名： _____

ご協力ありがとうございました。

恐れ入りますが、アンケートの回答は、**緑生研究所(坪山)宛に FAX(042-487-4334)** をお願いいたします。

編集後記

お読みいただき、ありがとうございます。第二十八号は、九月一日の発行を予定しています。特集では注目されている『生物多様性』について、その考え方や取り組みなどを紹介いたします。お楽しみに…

1998年版の「東京都の保護上重要な野生生物」の本土部の改定が終了し、2010年版が発表された。評価基準の変更、甲殻類・クモ類・貝類の追加、掲載種の検討などが行われ、合計1,557種(1998年版では1,303種)が選定された。やっと改定されたという感があり、今日の自然環境の移り変わりの速さを考えると、現況を反映するためには、もっと迅速な対応が必要なのではないかと思ってしまう。

